

発行日 平成 31 年 2 月 28 日

# 「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」

## フォーラムニュース 93号

発行：「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」

〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-5-5 本田ビル3階

TEL 03 (5157) 3180 FAX 03 (5157) 3180

E-Mail [csm-hq@eco-texj.co.jp](mailto:csm-hq@eco-texj.co.jp)

早春の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

フォーラムニュース93号をお届けします。

---

### 第81回 CSR&コンプライアンス研究フォーラム

---

1月23日に日比谷図書文化館にて開催されました、フォーラムの様子をお届けいたします。

#### 事務局挨拶

本年初めてですが、第81回 CSR&コンプライアンス研究フォーラムを開始します。

17年前、CSR&コンプライアンス研究フォーラムが始まりましたが、ドイツのNGOと共同で立ち上げました。初めはCSM2000(管理・監査で検証と実行を可能にする包括マネジメントシステム)を勉強して掘り下げ行く活動から始めました。

先般、ヒューマンライツ・ナウが実施した、上場アパレル企業へのアンケート結果が公表されましたが、「人権デューディリジェンス」についての記載もありました。「人権デューディリジェンス」とは、人権に関する方針の策定、企業活動が人権に及ぼす影響の評価、パフォーマンスの評価や開示などがと、ありますが、CSM2000と通じるものがあります。

参考.....

人権デューディリジェンスとは、組織が及ぼすマイナスの影響を回避・緩和することを目的として、事前に認識・防止・対処するために取引先などを精査するプロセスをいいます。

東京に本部を置く国際人権NGOヒューマンラ



イツ・ナウと英国に本部を置く国際人権NGOビジネスと人権資料センター(BHRR)は12月21日、

日本を拠点に活動する主要な日本企業、グローバル企業計 62 社に対し、人権ポリシーの策定と取り組み状況に関する調査結果を発表した。一部の先進的企業を除いて、人権リスクへの対応ができていない実態が浮き彫りとなった。

.....

## 「"EARTH MALL with Rakuten"の取り組みについて」

楽天株式会社 サステナビリティ推進部 企画グループ マネージャー 眞々部 貴之 氏



楽天の眞々部と申します。今回の機会を与えていただき感謝しています。

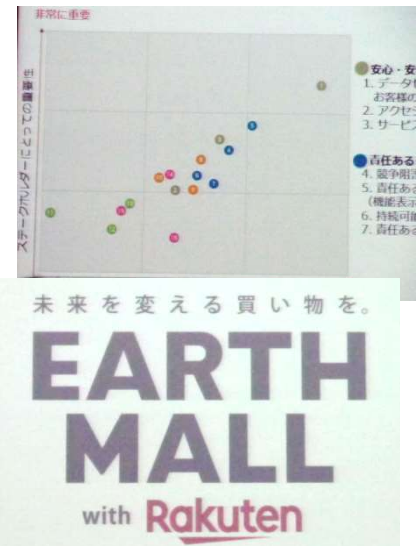
なかなかこのような講演の機会がありません、皆様のご意見などお聞きかせ下さればありがたいと思っています。私は、サステナビリティ推進部に属していますが、活動分野はCSR、IRなどの分野、また楽天技術研究所にも所属して、出店社さまと未来のお店を描くなどといった、いろいろな活動を行っています。楽天市場では、一昨年で約 46000 店舗、2.5 億の商品を扱って

います。流通の中では比較的大きな存在になってきています。

もともと楽天は 1997 年にスタートしましたが、目標 100 店のインターネット販売市場を目指すも 13 店舗の参加で始まりました。当時の地方の商店街はシャッター街と呼ばれる状態になりつつあり「何とかしたい」との思いがあった。インターネットの市場では地方のお店も銀座のお店も同じ、地方の中小のお店の活性化支援といった思いがあった。

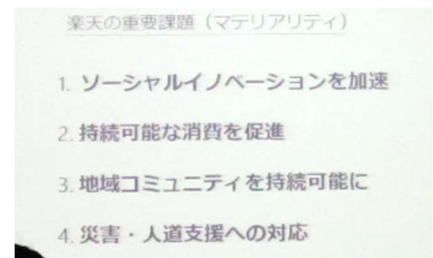
さて EARTH MALL についてですが、楽天としてのエンパワメントまたサステナビリティを考え、重要課題を検討する機会があった。その中では、個人情報の安全性(含むデータ)また、楽天ができるサステナビリティなどの検討の中で、EARTH MALL が出てきた。EARTH IS SMALL といった言葉から出てきた。すぐできることは、環境や社会に優しい商品を集めたインターネットショッピングサイトの運営、原料や製造工程などで認証を取得した商品を選んで「楽天市場」の利用者にアピールしようということです。

11 月末に発表しましたが、開始したサイト「EARTH MALL with Rakuten」では慶応義塾大学大学院の蟹江憲史教授や一般社団法人エシカル協会(東京・渋谷)らが商品の選定にあたる。木材の流通・加工過程を保証する国際認証「FSC」や、児童労働を禁止するなどの基準を守った認証「国際フェアトレード認証」といった認証を取得した商品を中心に紹介する。



商品点数は、まず 7000 点から始める。認証を取得している企業の商品が、楽天市場に並ぶことになる。「未来を変える買い物」まずは楽天ができる、商品販売を通してサステナブルな取り組みとして始めたということです。お客様は商品購入を通してサステナブルな社会につながるようになります。

11 月 29 日の発表会の記者会見では、小林正忠常務執行役員は「価格の安い商品だけではなくエシカルな商品を提案し、利用者にライフスタイルを変えていってほしい」と話した。



## 「持続可能な社会実現に向けた世界の潮流と日本の現状」

日本ビオホテル協会 中西和良

今日はホテルではなく、サステナブル、ビジネス、についてお話しします

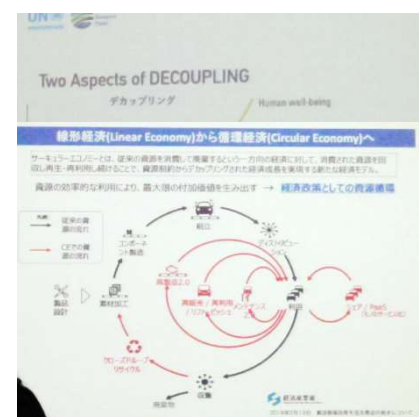
持続可能な社会。2050 年はマイルストーンといわれていますが、人口の増加予想は現在の 75 億から 98 億人に達すると予想され、30 年で 30% 増える。さらに様々な危機が予想されている。この時、世界はどうか？一つの予想は循環型の持続可能な世界になっている、またもう一方は持続不可能な状況に陥っている。

2015 年には、国連での 17 の目標・SDGs の採択、またパリ協定と大きな動きがありました、世界は一気にサステナブルの方向を向き始めた。

サステナブルな社会とは、環境・経済・社会が統合的に解決されている社会といわれている。新しい発想の社会、デカップリングというキーワード。環境を改善していこうといった流れが生まれています。原材料を増やさない・環境は改善していこうといった流れです。直線型の経済から循環型の経済に変化してゆこうということです。さてどう進めるかですが、サイクルエコノミーに向かって動き始めたということです。

EU は 2015 年のサイクルエコノミーパッケージで法改正も含

めた戦略、フィンランド・オランダは経済戦略を、フランス・イングランド・スコットランド、イタリアも経済戦略・政策を打ち出している。カナダも同じだ、中国は EU との技術支援の覚書を締結。アメリカでは民間がイニシャチブを始めている。台湾・インド・インドネシアも積極的な取り組みに向かっている。国としてサイクルエコノミーに向かっている。国際機関ではダボス会議、また経済人会議、産業界ではプラスチック業界(大手企業)が取り組みを始めている。個々では不要なプラスチックは無くしよう、どうしても必要なものも生分解の製品やリサイクルできる製品に変え環境への負荷





をなくそうといった方向。ファッション業界でも世界の大手は取組みをはじめている。原材料から消費までのサプライチェーンにわたって、パリ協定の完全実施を目指して、サイクルエコノミーへの動きをはじめている。食品、建築といった業界でも動き始めている。

このようなグローバルな潮流の中で、日本はまだ動いていない。リサイクルでは先端を走っていた日本なので技術などは優れている。皆さんの企業活動も少しでもサイクルエコノミーコンセプトの商品など進めておくことが世界の大きな潮流の中で大切ではないか。

### 「旭化成ベンベルグのサステナビリティ活動」

旭化成株式会社繊維事業本部ベンベルグ第一営業部兼グローバル戦略室 向井三郎氏

今日は旭化成というのではなく、旭化成のベンベルグに関するお話をさせていただきます。

旭化成の事業領域は 3 つ、マテリアル、住宅、ヘルスケアとありますが、私たちベンベルグはマテリアル事業の一つ繊維事業にあります。旭化成は 2.4 兆の売り上げの企業です。

繊維事業は 4 つの柱、まず「ベンベルグ」、ご存知のとおり、ベンベルグはコットンリントーを原料にしたキュプラ(再生繊維)ですが、当社の商標としてベンベルグと呼んでいます。次にストレッチヤーンなどの「ロイカ」、不織布。不織布はポリエステルナイロンなど各種の素材を扱っています。いろいろありますがおむつにも利用されるなど、また自動車用の人工スエードも不織布で扱っています。「レオナ」はナイロンで主には車のエアバックに利用されています。

ベンベルグが取り組むサステナビリティは、旭化成グループの CSR、またベンベルグ固有の管理基準と 2 つの部分から成り立っています。グループ CSR では、4 つの基本を重点に進めていますが、2 番目のリ spons ible・ケアでは、環境保全労働安全衛生等々での取り組み、また 3 番目の社会との共生などで、毎年目標を立て期末にその結果を透明性をもって公開する。またそれは外部機関による審査を受けています。ベンベルグもこの基盤の上で、推進されています。アニュアルレポートでは、CO2 は、化学物質は、水の利用は等々項目を分けて報告されています。ベンベルグでは社会貢献として、原材料の調達先であるインドで、国立大学の繊維工学の学生を対象にインドでの原産地での見学に始まり一部の生徒には日本にきていただき繊維を勉強していただく(ベンベルグ大学)など人材育成の支援、また世界各地の工場作業員への製造ノウハウの指導など技術教育も積極的に進めています。

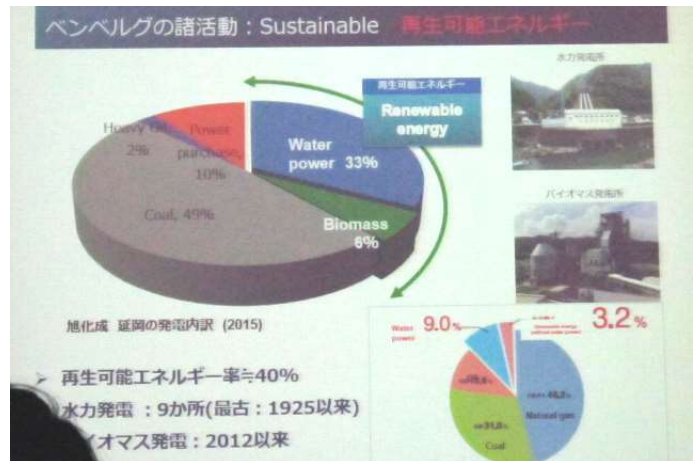
ベンベルグはCSRからCSV(Creating Shared Value)へ舵を切っています。

ベンベルグ固有の取組ですが、

世界で唯一のキュプラの生産を、87 年間継続できているわけで、これはコツコツと継続してきた技術革新と投資、またいろいろな用途開発、周辺技術の拡大また、時代に即した認証の取得といったことがあったからといえる。



海外の方から「再生可能エネルギー」は？と聞かれますが現状は水力、バイオマスなどの利用で40%になっている情況、また「ゼロエミッション」に関しては、工場廃棄物は 99.8%は自工場内で対応している情況です。またいろいろな認証に関しては現在6つの認証を取得しており、サイクルエコノミー実現に向けて進めています。



いろいろな活動を進めているが最近海外のお客さまと話すときにいろいろな認証は西欧のルールに即したのですが、日本人の考え方も紹介して説明することがあります。

八百万の神の考え方、剣道・柔道・花道・茶道などの「道」の考え方、競争、比較ではなく自己鍛錬を重視した考え、これらを説明するときちゃんと納得してもらえるように思います。

西欧の考え方を尊重しながら独自に考え抜いた正しいと思う行動をとっていくことも大切かと思います。



<お知らせ>

・第17回 CSR & コンプライアンス国際フォーラムを下記のように予定しております。

2019年 5月 24日 金曜 午後から 懇親会予定

会場 YKK株式会社 本社 80ビル (東京都千代田区神田和泉町1)

皆さまのご出席をお待ち致しております。

以上